

今、美濃加茂市には、2,400人のブラジル人が暮らしており、その在住ブラジル人とのパイプ役に、一人の日系人が国際交流員として今年の4月着任しました。

大里誠治(34)さんです。

着任8カ月、美濃加茂市の印象など聞きました。

## 広聴 市長と21世紀を語ろう 第26回「学校評議員さんと語る」

学校評議員制度は地域のみなさんの意見を学校運営に生かすよう設けられた制度で、県下全校に設置されているのは、全国的にも高知県と岐阜県だけです。

市長 学校評議員について日頃感じてみえることを聞かせてください。

Y 小学校は、校区が3町にまたがっており、児童生徒が住んでいる町内の自治会活動もそれぞれ違っており、調整が難しい。地域と学校と家庭をつなぐ役目として評議員をしています。

社会の移り変わりが早く、それに対応できない子どもたちが増えてきて。子どものしつけについては、家庭の割合が大きいと思う。しっかりと家庭でのしつけを



していくことが大切ではないか。

学校と関わってみて感じたことは、(子どもの教育が)私たちの子育ての時代とずいぶん変わってきたことを実感します。今の保護者は熱心ですが、(子育てに対する考え方が)何か違うような気がします。

この前、学校サポーターの記事を新聞で読みましたが、ぜひ積極的に活用していただきたいです。

中学校にたまたま訪問したとき、廊下で携帯電話をかけている光景を見ました。学校週5日制になる来年度から休みも多くなり、行き場のない子どもたちが多くなり、はしなやか心配です。

我々の子どもころは、野山を駆け回り遊んだ覚えがあります。そうして、いろんな事を自然の中から学んだ気がします。身近な自然がいつでもあるといいのですが...

加茂野町には、小さいときよく遊んだ、ため池がたくさんあります。そのため池も、今は改修されてあまりにもきれいになりすぎてしまったような気がします。

子どもも含めいろんな意見を聞いたほうが、面白いため池ができたような気がします。

中学校で荒れるお子さんは、きっとSOSを小さいとスモ解消されるようです。この前の産業祭では、国際交流コーナーで、ブラジルの国を紹介しました。パンフレット配ったりしたわけですが、市民のみなさんに少しでも、ブラジルを理解していただければうれしいですね。

4月に着任されてから、最も印象に残ることは、大里 市役所の窓口で、こ

とばが通じずに困っていたブラジル人が、通訳してようやく内容が理解できたときの、ほっとした顔は、忘れられません。

美濃加茂市に来てまだ日が浅く、市民のみなさんとなかなかお話しする機会がありませんが、それでも会合などでブラジルの生活習慣などについてお話しすると、みなさんがブラジルに興味を持っていただけるのがうれしいですね。

これからの抱負を聞かせてください。大里 まず、今の相談業務や学校へ通っている子どもたちのカウンセリングなど充実させたいですね。

きから発信していたのではないのでしょうか。そのことに、もっと周りが気をつけてやるのが大切だと思います。

なかなか、学校の情報は地域に伝わらない。Eメールやインターネットを使って情報発信することが望まれる。

学校評議員は、学校と地域と家庭を結ぶのが仕事だと思います。

昔の学校には、地域の人何人か先生をしていた。そうした人が地域とのパイプ役をしていたと思う。

先ほど、非行の話が出ましたが、がんこ親父がいなくなってきたのではないのでしょうか。

広聴  
市長と21世紀を語ろう  
今回は、一回お休みさせていただきます。  
すみません。  
総合政策課 内線 241

ブラジル人の中には、まだまだ、生活習慣の違いが分からない人がいます。そうした人たちが、一人でも多く日本の生活になじめるようにお手伝いしたいですね。

来年は、いよいよ、サッカーのワールドカップが日本で開催されますが、

大里 ブラジルのスポーツといえば、サッカーですからね。ぜひ、母国ブラジルにも頑張ってもらいたいです。ワールドカップで、ブラジルが出場する試合のときは、企業の中には休むところがあります。

また、学校は、早めに授業を終えるところもあります。優勝したときは、国中が大騒ぎです。ブラジルで一番大きな通日も、人で埋め尽くされますよ。



いつも笑顔の大里誠治さん。美濃加茂市初の国際交流員

美濃加茂市の感想は、大里 ここへ来る前は岐阜市に、3年ほど住んでいました。

美濃加茂市は、健康の森や文化の森といった週末に家族で遊べる施設が多く、外国人にも住みやすいところという印象があります。

日系人の人たちも、そうした施設があることを喜んでいますが、

でも、まだまだ、公共施設を知らない外国人が多いので、機会があれば、紹介したいですね。

毎日、どのような活動をしていますか。

大里 主な活動は、ブラジル人などの相談活動、また、

市役所各部署から頼まれる通訳や書類の翻訳です。相談には、直接あるいは電話で乗っています。相談内容は、行政の手続き方法から生活関連まであります。特に、この10月からは、この経済事情を反映してか、雇用関係や労働災害に関する相談が目立って多くなってきました。

私の力は、微力ですがそれでも、悩みを聞いてあげただけで安心される人もいます。

また、ブラジル人児童の多い古井小学校など市内の小中学校6校に、通訳やカウンセリングに訪問しています。

子どもの中には、ことばが通じず不安な学校生活を過ごしている子もいて、ポルトガル語で話しかけると、ストレ

